

香川と都市圏の大学との連携・協力に関する協定書合同締結式及び協定締結記念合同フォーラムを開催

12月19日に、津田塾大学・芝浦工業大学・香川大学は、高松シンボルタワーにおいて、連携・協力に関する協定書合同締結式及び協定締結記念合同フォーラムを開催しました。これは、津田塾大学と香川大学、芝浦工業大学と津田塾大学が、包括連携協定の合同締結式を実施したもので、津田塾大学と香川大学との協定では、教職員・学生の交流の推進等、教育と研究の両面にわたって広く連携・協力を図り、双方の学術研究の成果を共有すること等により、21世紀における両大学のさらなる発展を目指すとともに、社会にその成果を還元し、我が国の発展に寄与することを目的とします。

連携・協力事項は次のとおりです。

- (1) 教育・研究に関する事項
- (2) 教職員・学生の交流に関する事項
- (3) その他本協定の目的に沿う事項

本協定の締結により、学生・研究者の交流機会が増えるとともに、関連産業の振興や地域社会との連携が拡大することが期待されます。また、津田塾大学と芝浦工業大学との協定締結は、内閣府地方創生支援事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」において、両大学が、この香川の地で交流を深めたことにより実現しました。

締結式に続いて行われたフォーラムでは、「都市圏と地方をネットワークする女性の関係人口の増やし方〜津田梅子の事例から学ぶ〜」の題目で津田塾大学の高橋裕子学長による記念講演が行われました。来賓には、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長平野博紀氏、香川県政務部長 大山智氏、高松市副市長 加藤昭彦氏、香川経済同友会 合田耕三氏が招かれ、3大学の学生・教職員、自治体関係者、企業関係者等から、総数150名を越える多数の参加がありました。



津田塾大学・芝浦工業大学・香川大学の関係者

令和元年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

12月18日に、学長主催による外国人留学生交歓会がホテルパールガーデンにおいて開催され、本学の外国人留学生、外国人研究者、教職員、チューター・サポーター等日本人学生、地域の方々等、約230名が参加しました。この行事は、本学の外国人留学生等を励ますとともに、留学生相互及び教職員、チューター、サポーター、地域の方々等関係者との親睦を深めることを目的として、毎年開催しています。今年の交歓会は、留学生センター留学生のMUHD HAIMAN NIZAM MARZUKIさんとRANGSON SOITIPさんの司会進行のもと、筑学長による激励の挨拶、留学生代表の教育

学研究科のCHILAMBA MOYENDA MOSESさんによる挨拶、そして、徳田副学長（国際戦略・グローバル環境整備担当）による乾杯の発声により、開始されました。懇談の合間には、ベトナム、バングラデシュ、インドネシア、タイからの留学生による歌とダンスが披露され、会場は大いに盛り上がりました。最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくりました。これを機に本学の留学生達が、更なる交流の輪を広げ、日本の留学生生活が充実したものになることを願います。



前列中央左：徳田副学長 右：筑学長



地域の方も一緒にダンス



香川大学
医学部長
上田夏生
ueda natsuo

香川大学で、大学生活をトータルに楽しもう

大学は変わりつつあり、従来の「先生が学生に何を教えたか」から「学生が卒業までに何を身に付けることができたか」を重視するようになってきました。この「何を」が知識や技能であれば、筆記試験や実技試験で評価することは難しいことではなく、実際、多くの授業科目ではそのような方法で成績が付けられています。ところが香川大学の基本理念を見ると、「何を」の中には、「豊かな人間性」、「高い倫理性」、「課題探求能力」、「国際的視野」など、特定の科目の成績では測りにくいものや、卒業時点で身に付いたかどうかをただちに判断しにくいものが多く含まれています。そこで社会人になった卒業生を対象にして、大学時代に修得できたものについてアンケート調査で振り返ってもらったりします。しかし社会で真に求められるもの、例えば自主性・進取の気性・協調性・

忍耐力等々は、授業もさることながら、課外活動であるサークル活動や、大学祭など学生主体の行事、時間的にも体力的にも自由を謳歌できる大学生ならではのアルバイトや旅行、趣味等、何か夢中になれることを通じて培われることも多いのではないかと感じます。

私ぐらいの年齢になりますと、自分が大学で学んだことをその後のキャリアに結び付けて振り返ることができます。私にとってその筆頭は、医学に関する一通りの常識と研究の面白さを学んだことです。自ら研究室に入出入りし、研究者の仲間に入れてもらったような気分得意になっていました。私は基礎医学の教育・研究をその後ずっと続けることになりましたが、そのような人生になるとは大学入学前には夢にも思っていませんでした。そして、先生、同級生、先輩後輩など、その後長きにわたり親交を深めることになった

人達との出会いは、大学時代の大切な宝物です。サークルやクラブ活動や趣味を通じて、チームで何かを達成することの充実感や感動も、数多く経験しました。このことはリーダーシップを求められる機会が多い立場にあって、少しは役立っているかもしれません。

ですから、至極平凡な結論になりますが、昔からよく言われる「よく学び、よく遊ぶ」をバランス良く実行することこそが、大学生活の極意だと思います。



昔も今も医学科で最も記憶に残る授業は「解剖学実習」。4ヶ月の実習を共に過ごした仲間と最終試験の前日に、「17」の後ろに立つのが私です。



VOICE

目標を持ち本気で取り組んだ4年間。独立リーグに入団しNPB(日本プロ野球)を目指す。



香川大学硬式野球部は現在全員でマネージャーを含め33名、自分たち4年生は11名で活動してきた。自分たちが1年秋の時、四国六大学リーグの2部リーグに降格した。その時は、試合には出ていなかった。ただベンチで先輩が泣き崩れているのを見ているだけだった。

入部した当時は、1年から4年まで全ての学年に部員がおり、ある程度人数がいたのがそれなりに活動できていたのだが、一つの代に入部した部員が一人もおらず、だんだん学年が上がるとつれてその穴が大きくなった。その結果できる練習メニューが少なくなり、うまく練習が回らなくなっていたのだ。

2部に落ちてからの1年間は、1部に上がれなかった。そこで、香川大学硬式野球部の強みでもある、選手たちで考えて行う野球というのを皆でもう一度考え直した。選手同士で教えあったり、ネットでトレーニングを調べて練習に導入したり、自分たちで動画を撮って研究したりと考えて野球を行なった。そうすることで、チームとしての結束が次第に強くなっていった。

また、当時着任した藤澤コーチと田中コーチが毎日のように練習を見に来てくださり、選手目線に立ってアドバイスをくれたり、きめ細やかな提案をしてくれたり選手が野球に集中しやすい環境を熱心に作ってくれた。これらの努力の甲斐もあり、3年春には1部に昇格し、秋には1部リーグ2位にまで成長することができた。

4年時には、自分たちが上級生としてチームを引っ張っていく立場となり、これまでない苦労を経験した。春は最下位プレーオフま

で行ってしまい、秋は最下位の上、入れ替え戦に負け2部に降格になってしまった。

1部に昇格した時やリーグ2位になった時には感じていなかったがチームを引っ張る力の大きさを改めて痛感した。そして、チームは学年関係なく、自分の意見を言い合えることが大事だと気がついた。当時のチームではそれができていなかった。そんな中、自分たちは四国アイランドリーグに評価され、スカウトされた。2部に降格になっていても、みられている人がいることを忘れてはいけないと思った。

自分たちの経験を通して、後輩には、ただ野球をするだけではなくどうしたら飛距離が伸びるのか、どうしたら球速が上がるのかなどを常に追求しながら練習したり、試合に臨んだりして欲しい。また、チームとしての練習を楽しんでモチベーションを上げて1部昇格を目指して頑張ってもらいたいと思う。

大学生活を、遊んで楽しく過ごすのも良いが、何かに本気で目標をもって取り組むことも大事だと気付いた4年間だった。いい部活でいい仲間と過ごせた。人生の目標を持つこともできた。この春に、自分たちは四国アイランドリーグの「香川オリブガイナース」(田淵)と「高知ファイティングドッグス」(大原)に、それぞれ入団する。これからはNPBを目指し、楽しみ、考え、野球に取り組んでいきたい。

香川大学硬式野球部 4年
法学部・大原拓光 教育学部・田淵雄基



田淵雄基(左)、大原拓光(右)



逆転ヒットを打ちベンチに部員とお決まりのポーズをとる大原



徳島大学との入れ替え戦でヒットを放つ田淵



スポーツ少年団の手伝いにも参加し子どもたちに競技の魅力を伝えた

EVENT



情報保障に関する
講演会 **グラフィックレコード**
学生及び教職員のバリアフリーに関する意識向上と障害者支援に関する知識・スキル向上を目的として開催。図や絵を使って議論を可視化する手法である「グラフィックレコーディング」の基本的な手法についての講習が行われました。



香川大学博物館特別展
「新しい昆虫食の世界」
農学部公認サークル Lieto Ottimo による特別展。将来の食料不足の解決策として注目を浴びている昆虫食について展示。これまでの昆虫食のイメージが変わります。



La Voce 歌のランチタイムコンサート
教育学部音楽研究領域の歌を研究している学生たちが企画したコンサートが415教室で開催されました。ミュージカル「ウェストサイド物語・Tonight」から始まり、3曲のオペラとオペレッタ「メリー・ウィドウ」が熱演されました。

from International Office



ちきゅう見聞録



ブルネイ・ダルサラーム
教育学部人間発達環境課程
熱田尚子
2019年8月から12月まで
EXPLOREプログラムで
ブルネイ・ダルサラーム大学に留学



人文社会学系の学部所属し、大学の一学生として自身で履修登録を行ったり授業に出席したりと、現地の学生たちと同じように過ごしました。スライ先は大学が提供する寮で、様々な国からの学生・研究者の方たちに出会えました。



隣接する2つの図書館には充実した自習スペースが完備されており、予習復習や課題が落ち着いてできました。カフェテリアではおしゃれでオーガニックなドリンクやスナックがあり、アボカドジュースやタピオカドリンクがとて人気でした!



国土の7割が森林で覆われているブルネイは、天然資源に恵まれています。一年を通して過ごしやすい気候です。ブルネイ人はスポーツをしたり、ハイキングをしたり、筋トレをしたりと毎日朝から外で体を動かすことが大好きです。

read more

